

共通語彙基盤検討会議 議事概要

1. 日時・場所

2013 年 8 月 21 日（水）16：00～18：00
経済産業省別館 11 階 1107 各省庁共有会議室

2. 出席者

配布資料「資料 0.1」の通り（欠席者無）

3. 議事趣旨

3.1. 開会挨拶、自己紹介

和田経済産業省情報プロジェクト室長よりの開会挨拶のあと、参加者からの自己紹介を行った。

3.2. 事業背景と説明

3.2.1. 共通語彙基盤の検討について

資料 1 に基づき、閣議決定、工程表における共通語彙基盤事業の位置付けと、検討体制について説明。

検討体制は現在整備中であり、各委員会等は 9 月に正式に発足する予定。

そのため本会議はその準備会の位置付けであり、9 月以降に正式のワーキンググループとなる予定。

3.2.2. 共通語彙基盤のモデル検証例について

資料 2 に基づき、昨年度経済産業省が実施した、公共情報交換標準スキームの整備に関する調査研究結果及びその後の進展について説明。

同調査研究を通して提案された、語彙の統一化を図るためのスキーム、

Infrastructure for Multilayer Interoperability（IMI）が、今回の共通語彙基盤事業のベースとなっている。

IMI のモデルについてはリバイズと検証を進めており、現在の最新ドラフトや例は参考資料 1～6 に示すとおりである。

3.2.3. 情報連携用語彙データベースに係るプロジェクトについて

資料 3 に基づき、共通語彙基盤の構築のために IPA が計画する事業について説明。IPA では、共通語彙基盤の中核となる語彙データベースの開発と、それを活用するためのツール群の開発に着手する。本年度はそのための概念モデルの構築を実施。特にツールについては、多様な可能性から最適解を探るために、複数の実験を進めつつ将来像を検討する計画である。

3.3. 質疑・応答

- 本事業で扱う「語彙基盤」の概念は、一般にとってその意味や有用性などが理解し辛い、「分かりやすさ」を意識して事業を進めることが重要である。⇒本事業では、ツール類の試験的運用など、目に見える施策も併せて実施する計画としているが、さらに広報等にも力を入れたい。
- 語彙は膨大なため、一年毎の目標等を明確にしておかないと事業が際限なく広がり、結果が出ない恐れがある。
⇒まずは（電子行政オープンデータ推進のための）ロードマップに掲げられた重点分野から開始し、議論をしながら進めてゆきたい。
- 共通語彙基盤の目的は、電子行政・オープンデータの双方に関わるものであり、行政に閉じた問題として扱うべきではない。こうした立場を明確にする必要がある。
⇒まずは行政で用いる語彙を対象とするが、その活用は民間に開放する方針である。
- 海外システムとの整合性や、既存の語彙の再利用が重要である。
⇒海外の関係者の意見も取り入れつつ事業を進める計画である。
- ツールについて、新規に作成するだけでなく、むしろ、オープンソース等で公開されている既存のツールを積極的に活用するのがよい。
⇒事業の公募にあたってそのような評価軸を設けたい。
- 語彙も政府の体制も変化するものである。変化に対応できる柔軟なデータ構造や運用方式が極めて重要だ。
⇒今年度の事業は技術や運用の将来像を検討することも中心テーマであり、その中でぜひ良い方策を見つけない。
- 本事業で作成するデータやツールはどのようなライセンスで公開するのか。
⇒ソフトウェアについてはオープンソースライセンス、データについてはクリエイティブコモンズ等、利用に制限のかからない方式での公開を考えている。
- オープンソースは、コミュニティによる自主的なメンテナンス体制が無いとうまくゆかないのではないか。
⇒採択に当たっては、そのような計画を持つ提案者を高く評価するようにしたい。

3.4. 検討すべき論点について

資料4に基づき、共通語彙基盤構築を進めるにあたって、今後検討すべき事項について説明。語彙の整備にあたっては、行政の実務者を交えた密な検討が重要である。

3.5. 閉会

事業趣旨、論点等について特に異議なく会を終了。

9月中旬に委員会体制の整備を整え、11月ごろに第1回共通語彙基盤WGを開催予定。

以上